

登録日時	2009 1/27 19:32	登録番号	008
チーム名	グリーン排水処理技術研究展開チーム		
行動主体	<p>独立行政法人建築研究所 (代表: 環境研究グループ 上席研究員 山海 敏弘、TEL: 029-864-6674) 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科都市基盤環境工学専攻 教授 河村 明 福島大学 共生システム理工学類環境システムマネジメント専攻 教授 稲森 悠平 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 准教授 大瀧 雅寛 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 農村総合研究部資源循環システム研究チーム 主任研究員 山岡 賢 特定非営利活動法人次世代水回り研究会 東日本高速道路株式会社 ネクスコ東日本エンジニアリング株式会社 いであ株式会社 株式会社リンフォース 財団法人茨城県薬剤師会公衆衛生検査センター【調整中】 株式会社地域開発研究所 TOTO株式会社 株式会社INAX</p>		
行動内容	<ul style="list-style-type: none"> 住宅や建築物から排出されるし尿、雑排水等に含まれる汚濁物質の発生源での分離(尿分離)、節水+汚濁度合い・系統に応じた排水の適正処理によって、水環境への汚濁負荷低減による水環境・水資源の保全だけでなく、節水による水資源の有効活用、省エネ・省CO₂化を実現し、且つ、低コストな「グリーン排水処理システム」の研究・開発を実施し、国内外での普及・発展を図る。 要素技術として、日本発の要素技術である超節水型便器(洗浄水 600ml/回程度)とその利用技術、無水便器、尿分離型便器を活用したし尿のバイオマス利用等、循環利用技術等に関しても検討を進める。 		
課題分析	<ul style="list-style-type: none"> 近年、省エネ・省CO₂対策や、国際的な水資源枯渇対策の必要性が指摘されており、建築物における排水処理においても、水環境への排出負荷削減だけでなく、これら課題への対応が強く求められている。 従来から用いられている合併処理浄化槽は、要するに下水道をスケールダウンしたものであり、汚濁物質を発生源で分離したり(尿分離等)、排水を汚濁の程度や系統に応じて適正処理したりする等、オンサイトならではの条件を活用した技術開発が進んでいない。 また、排水処理システムの規模は、流入する汚濁負荷量だけでなく、処理水量に大きな影響を受けるが、従来節水技術と連携した排水処理システムについても、技術開発が進んでいない。 これらオンサイト特有の条件を有効に活用した低コストな「グリーン排水処理システム」の開発・普及により、水環境への汚濁負荷低減による水環境・水資源の保全のみならず、節水による水資源の有効活用、省エネ・省CO₂化が期待でき、この技術は、特に途上国対応技術として有効である。 		
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 国内では、喫緊の行政課題となっている既存単独処理浄化槽対策技術として検討を進めるとともに、本システムの導入効果が高いと思われる道路関連施設(SA、PA、道の駅)、公衆便所等を対象として検討を進める。 国外では、飲料水の確保、飲料用水源の保全等のため、トイレ・生活雑排水対策が喫緊の課題となっている地域への技術支援を中心として検討を進める。 		